

令和4年度第1回「konohana permanente100 (仮称)」有識者会議

日時：令和4年8月19日(金曜日) 午後1時 開会

開会

【綱嶋課長】

それでは定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回「konohana permanente100 (仮称)」有識者会議を開催いたします。私は此花区役所まちづくり推進課総合企画担当課長の綱嶋でございます。よろしくお願いいたします。この有識者会議は、公開での開催となります。本日の資料とあわせて後日、議事録を公表いたしますが、ご発言者のお名前と発言内容を掲載させていただきますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。それでは開会に当たりまして、高橋区長から御挨拶申し上げます。

【高橋区長】

本日は暑い中、また忙しい中、此花区役所までお越しいただきまして本当にありがとうございます。本日は、正蓮寺川公園をアートの公園にしていくということに向けて、ご意見やアドバイスをいただきたくお願いをしたということでございます。私はここで区長をさせてもらってまだ3年目でございますが、大変僣越ながらではございますが、此花区はすごく歴史的に見て未来志向の、周りに向けて夢を発信し続けてきたような街かなというふうに思っています。その昔は、鴻池様のご先祖様が、東京の方においしい上方のお酒をはじめとする品物を運んで、そこで様々な文化が日本中に広まっていきました。また、その後、重工業の街になったわけですが、今でこそ重工業というと何か少し古いというマイナスなイメージも少しあり、公害もその後出てきたわけでございますけれども、以前でいうと重工業は大変夢のある世界でございました。例えば、1例申し上げますと、当時の住友金属が、戦前の話でございますけれども、日本のプロペラのほとんどすべてを此花区で作っていたということだそうでございます。今は日本製鉄という名前になりましたけれども、日本の電車の車輪の9割を作っているという、そんな夢のある仕事をしていただいております。現在はユニバーサル・スタジオ・ジャパンがございまして、土地を見ましても豊かな土地を、夢のある暮らしをしたいということで、どんどん遠浅の海であったところを埋め立てて、沖へと伸びてきたところでございます。今は夢洲というところが、土地としては最先端でございまして、その夢洲は万国博覧会が2025年にやってくる、世界に向けて未来を発信する、まさに此花区の運命だったのではないかというふうに思っております。その万博のレガシーをアートの公園という形で未来に残していく第一歩を、2025年を契機に、また来年辺りをプレとして始めていきたいと考えておりまして、ぜひご意見を賜りまして、すばらしいものにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。私からは以

上でございます。また、会議の途中で何か申し上げることがあるかも知れませんが、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

【綱嶋課長】

ありがとうございました。続きまして、本日ご出席いただいております当会議のメンバーを、五十音順でご紹介させていただきます。生駒京子様でございます。

【生駒様】

生駒でございます。よろしくお願いいたします。

【綱嶋課長】

鴻池一季様でございます。

【鴻池様】

どうぞよろしくお願いいたします。

【綱嶋課長】

橋爪紳也様でございます。

【橋爪様】

どうぞよろしくお願いいたします。

【綱嶋課長】

それでは議事に入ります前に、当事業の舞台となります正蓮寺川公園につきまして、今年の3月の末にドローンを用いまして空撮を実施いたしましたので、そちらの映像は約2分弱になりますが、ご覧になっていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

≪ 正蓮寺川公園に関する映像を上映 ≫

【綱嶋課長】

ご視聴ありがとうございました。正蓮寺川公園のイメージをお伝えさせていただいたところで早速、お手元のパワーポイントの資料1「第1回有識者会議（仮称）」の右下にページ数を記載しておりまして、その2ページをご覧ください。我々万博の開催区といたしましては、万博のレガシーを正蓮寺川公園にアートの形で未来社会へつないでいきたいという強い思いがございます。映像ご覧になられておわりの通り、正蓮寺川公園は区民による環境問題の克服から生まれた公園でございます。万博の目指すSDGs達成への貢献と同じ

意志を持っている公園でございまして、当事業の舞台として最適と考えております。また、2025年万博の開催年は此花区制100周年でもございまして、長い年月をかけて100作品のアート作品の設置を目指して進めていく予定でございまして、非常に夢のあるプロジェクトでございまして、本日皆様方からの貴重なご意見等を踏まえながら、当事業を推進することで正蓮寺川公園を未来の子供たちに親しまれ、わくわくするような場へと再生させていきたいと願っております。

資料の3ページをご覧ください。本日の議事次第ですが、3つ目の議題「アート事業名について」から6つ目の議題「アート1作目について」まで、事務局から一括でご説明させていただきます、皆様から行きつ戻りつご意見を賜れたらと考えております。

議 事

【綱嶋課長】

それでは議事へと入らせていただきます。議題1「有識者会議について」ですが、資料の4ページをご覧ください。本事業を進めるにあたっての検討体制ですが、この有識者会議でいただいたご意見を踏まえ、事務局で整理し、地元地域で構成される「正蓮寺川・六軒家川環境整備推進協議会」の中で立ち上げるアート部会メンバーや行政関係者、その他関係者から成る本事業の実行委員会で審議していただきながら推し進めてまいります。資料の5ページをご覧ください。専門的な観点から当事業に対するご意見をいただくのが、当有識者会議の役割でございまして。資料の6ページをご覧ください。ご意見をいただきたい事項といたしましては、コンセプトや実施方法、アート作品の審査、選定などがございます。ここまでで何かご質問等ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは続きまして、議題2「座長の選出」について、7ページをご覧ください。座長の選出につきましては、メンバーの互選により選出してまいりたいと考えております。座長の役割といたしましては、当有識者会議の議事の進行でございまして。どなたかご意見のある方はおりますでしょうか。

【鴻池様】

3名しかおりませんが、一番この分野で経験豊富な橋爪紳也様に座長をしていただいたらどうかと思います、ご提案申し上げます。

【綱嶋課長】

生駒様いかがでしょうか。

【生駒様】

同じでございまして。橋爪先生にお願いしたいと思っております。

【綱嶋課長】

ありがとうございます。そうしましたら、橋爪様に座長をお願いしたく存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【橋爪様】

はい。

【綱嶋課長】

それでは橋爪様は座長席に移動していただきまして、以降の進行につきましては座長の橋爪様、どうぞよろしくお願いいたします。

【橋爪様】

ご指名いただきましたので、座長をさせていただきます。円滑に進行できますよう進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。ちょうど2025年が大阪が市域拡張、「大大阪」となってから100年目となります。従来の大阪市の周辺の村々を合併する際に、分区の私たちで此花区ができました。ちょうど「大大阪100年」の祝い事と合わせて、この事業が他の区からも注目されるような事業になればいいなと思っております。では、先ほどもございましたように、議題3から6につきまして、まとめて説明をお願いいたします。

【綱嶋課長】

はい。それでは3つ目の議題「アート事業名」につきまして、資料の8ページをご覧ください。アート事業名につきまして、ふさわしい名称を皆様よりご意見を賜りながら考えていきたいと考えております。その際の参考になればと思い、全国のアート事業名を抜粋したものや、次の9ページに此花区役所若手職員等が考えました事業名を記載しております。続きまして、10ページをご覧ください。4つ目の議題「有識者会議名について」で、この有識者会議がコアとなって、万博に向けたまちの盛り上げに向けて、他の区や企業等に広がっていくことを願っております。そういったことを踏まえまして、次の11ページをご覧ください。この有識者会議にふさわしい名称を、皆様よりご意見をいただきたいと考えております。その際の参考になればと思い、全国の有識者会議名を抜粋したものや、次の12ページに此花区役所若手職員等が考えました事業名を記載しております。有識者会議の正式名称とあわせて、親しみやすい愛称もご検討いただいても結構でございます。続きまして、資料の13ページをご覧ください。5つ目の議題の「テーマ及びコンセプト」について、まず、皆さんもご存知の大阪・関西万博の目指すものとしたしまして、「いのち輝く未来社会のデザイン」や、「持続可能な開発目標の達成への貢献」を掲げておりまして、次の14ページに、そういった万博の思いを踏まえ、正蓮寺川公園を舞台として、万博のレガシーをアートの形で未来社会へつなげていきたいなどの当区としての思いを記載しております。また、15

ページのアート作品に対しましては、皆様のアドバイスをもとに、万博のレガシーにふさわしい作品を常設したいと思っております。特に、1作目は万博を端的に象徴する作品を公費負担で設置し、2作目以降は私たちの意志や行動にご賛同いただいた企業・団体等からの寄付などにより、コンセプトに即して設置してまいりたいと考えております。その思いをもとに16ページの通り、テーマとコンセプトのたたき案を記載しております。テーマは、「万博のレガシーをここに」とし、コンセプトとしましては、「アートで感じる、大阪・関西万博のレガシー」や「SDGsの達成への貢献」などを列記しております。17ページから18ページは、他のアートイベントもテーマやコンセプト事例をご参考までに掲載しております。19ページをご覧ください。議題の6つ目の「アート1作目」について、重複いたしますが、1作目は非常に重要と考えておまして、万博のレガシーにふさわしい作品、万博を端的に象徴する作品をと考えております。議題3から議題6まで長々と説明いたしましたが、本日皆様の忌憚のないご意見をいただきましたら幸いですので、どうぞよろしく願います。

【高橋区長】

少しだけ補足をさせていただいてよろしいでしょうか。2点だけ補足をさせていただきます。役所がセッティングする会議というのは、役所が事務局をして、だいたい案を決めて、これをお願いしますというのが多いですけれども、私どもはそれをあまりしたくないと思っております。本当に一からご議論いただければなというふうに考えてございます。もし今日結論に至らなくても、今日の議論を踏まえた案を改めてお持ちしまして、持ち回りの形で決めていく、そういうやり方もありかなと。それは座長様にご一任をさせていただきたいと思えます。もう1つは、ちょっと頭を混乱させてしまったかもしれませんが、10ページのタコみたいな絵をご覧いただきたいのですけれども、この今日の主題はあくまで正蓮寺川公園でアートの動きを作っていく4ページのお話でございます。ただ、将来的にはこの正蓮寺川公園の動きなんかも火付け役になって、いろんな区、或いはいろんな企業様に広がっていけばいいなと。そのときにこの有識者会議がコンセプトを提供する、或いはアドバイスをする、そんな広がりになっていけばいいなという願いを込めて10ページの図面がついてございます。4ページと10ページはそういう関係でございます。私からの補足は以上でございます。

【橋爪様】

はい、ありがとうございます。この場で決め切らなくても、広くご意見いただければということで4点ございます。1個目は「事業名」、原案が仮名称ですが「konohana permanentale100」です。イタリア語にもとづいた造語のようです。続いて有識者会議の名称です。先ほどあったタコのイメージと合わせて、こういう展開を広げていく場合の会議名は何かということをお聞きいただいております。このアートイベントの名前をそのま

ま有識者会議名でなくてよいということです。3つ目としては「テーマ及びコンセプト」、今は仮案で万博のテーマと此花区の思いを書いておりますが、これをかけ合わせる形で、何かテーマ・コンセプトをもう少し深めることができるのか。4つ目が「1作目のアート作品」に関してですが、これが万博の2年前ぐらいにできますので、1作目・2作目は万博の前に出来上がっていることとなります。3作目・4作目ぐらいから万博の会場内にあるやつを移築することも可能。企業や各国が出展したアートで、持ちかえるよりも此花区に置いていた方が良いものももらい受けるような発想があればと思います。財源さえあれば、そういうのができるかもわかりません。実際、1970年大阪万博でイタリア館にあったマーキュリー像が寄贈され OMM ビル前にあります。レガシーとしては会場内にあったものの寄贈を受けていければと思います。ただ、まずは機運を盛り上げるといいですか、来年度に第1弾をどういふふうな考え方で設けるのかをご意見あればということでございます。では、今の4点、「アート事業名」「有識者会議名」「テーマ・コンセプト」「1作目の考え方」について、意見交換できればと思います。

【鴻池様】

資料の順番にコメントさせていただきたいと思います。これはあくまで現時点のちょっとしたアイデアということで、また途中でいろいろ変わっていくかもしれません。2ページ目のところに、万博のレガシーを正蓮寺川公園にということ、正蓮寺川公園の中にアート作品を作っていくという1つの位置付けがありますが、だいぶ前に高橋区長の方から、此花区をアートでいっぱいにしたいというお話がありまして、正蓮寺川公園のみならず、いろんな個人の方、企業の方にご協力いただいて、例えば建物の壁面にアートを作ってもらって、絵画を描いていこうとか、そういう形のお話もありました。それは具体的に動き始められたら少し難しい点があったとお伺いしたのですが、ただ機運が盛り上がってくれば、此花区の1つの個性として取り上げられてくるのではないかなという感じはします。それが1つの起爆剤的な位置づけということになるのではないかなと。それから、長い年月をかけて100作品を目指すということで、仮称のタイトルの100について、創立100周年と合わせて書いてありますが、歴史は100にとどまらずにずっと続いていますし、作品の数も100個達成したらゴールという事になりますので、100個達成してもその次もあっていいのかなと。そういう意味で仮に「100+」というような表現もできるかなという感じがします。

【橋爪様】

最初から1000にしておいたらという発想もあるかと。

【鴻池様】

まだ続きがあるというイメージがあったら良いのではないかなと思った次第です。それから4ページの有識者会議の位置付けで、正蓮寺川・六軒家川の環境整備推進協議会、これ

はもうずっと歴史を持って進めてくれており、その中にアート部会というのがある。これはできているのですか。これからですか。

【綱嶋課長】

これから、書面開催で承認を得て、近々出来上がります。

【鴻池様】

どちらとしても、こちらは実施部隊により近い形かなと思うのですが、そこへ提案するようなアイデアを有識者会議の中で議論していくかなと。位置付けがどういう関係になるのかなと。長くやっていくといろいろな意見が異なることは絶対出てくるとは思います。当然異なる意見をぶつけ合うことは大事だと思いますので、その辺がうまく機能すればいいなというふうに思います。それから、アート事業名ですけれど、たくさんいろんな地区でいろんな名前があり、ややこしいですが、区役所の方で考えられた「konohana permanente 100」について、最初はちょっと長ったらしい感じがしたのですが、何回も頭でイメージしているとだんだん慣れてきたかなという感じ。よくビエンナーレとかトリエンナーレとかいう芸術祭を2年に1回や3年に1回されていて、「〇〇ナーレ」は馴染みがあると思うので。

これは単なる私のアイデアですが、大阪市とミラノ市が姉妹提携をされています。ミラノにはトリエンナーレがありまして、これは元のルーツからいくと、約100年前の1923年から他の町でやったものが1933年にミラノにきて、それから90年になると。3年に1回、建築や工業デザインなど、いろんなアート関係をやっています。そこら辺と場合によっては提携して、姉妹都市として向こうのアイデアなり人なりを呼んでくるというようなことも、この名前が決まる可能性があるかなと。実は私、大阪におられたカナダの総領事でマーガレット・ヒューバーさんという方と非常に懇意にしており、ミラノのカナダ総領事館の総領事として赴任しておられた時にお邪魔することがありました。ミラノというと大阪出身の喜多俊之さんが非常に活躍しておられるということもあって、工業デザイン協会を訪問して、会長さんのお話をヒューバー総領事とともに伺いする機会がありました。イタリアはドイツ、日本とともに第2次世界大戦の敗戦国だったが、その戦後復興でドイツと日本は工業化が非常に進んだ一方、イタリアは工業化の基盤が薄かったので、歴史と文化、芸術でミラノを復興したいと。それから、ミラノで活躍したレオナルド・ダヴィンチの芸術作品が町中に溢れていることも背景にあり、やはり産業復活に使わない手は無いということで、いわゆる産官学連携といいますか、製品として工業化をする。デザインだけでなくデザインと生産との連携にて、まちおこしの1つとしていく。もう1つ、芸術はやっぱり才能が大事なので、こういう言い方は非常に問題あると思いますが、才能のない人を100人呼んでもなかなか芸術は進まない。少人数でも才能のある芸術家を選定する。それが最先端を走っていくためには大事だと、非常に印象的な話を聞いた思いがあります。また、生駒様が代表幹事をやっておられる同友会の文化委員会で、サーカスのシルクドソレイユの本部が

あるモントリオールに行きました。そこは文化と芸術で価値を発展させようということで、官民合同の第3セクターで全体のコーディネートをやっている。我々が行ったのは11月だったと思いますが、コンサートホールや芸術劇場では年間700回ぐらい、いろんなイベントやっておられると。我々が見に行ったのは非常に面白くて、舞台芸術の市場というか、パフォーマーとそれを買い付ける興行主が世界中から集まって、1技団ずつ短編のすごく凝縮したパフォーマンスを見せる。それを世界中から買い付けに来ていると。そういう仕組みが面白いなと思ったのですが、地域おこし・まちおこしの中でそういう人を集めてくるということがありました。

SDGsが万博のテーマの基になっているということですから、此花区の正蓮寺川の保存というのも、まさに環境が悪くなった正蓮寺川を地下水路にして上方を公園にしていることは、環境の再生という非常に価値があると思います。レガシーという言葉は、私は少しマイナスのイメージがありまして、「遺産」という感じがします。それを1つの起爆剤として、次やってくださいという意味の方が良いかなと。ただ、単に万博の記憶として残しておくというだけではなく、次につなげるような形がいいのかなと。第1作目の話もテーマが上がっていますので、今の単なる発想ですが、例のバッチのマーク（万博のロゴマーク）を同じ作家にお願いして、彫刻にしてもらって置いたら話題にはなるのではないかなというイメージを持ちました。少し取り留めもない話をしました。現時点では以上です。

【橋爪様】

ありがとうございます。では、生駒さん。

【生駒様】

はい。ありがとうございます。たくさん鴻池さんがおっしゃったので、同じようなことになるかもしれませんが、私も3ページの議事次第の順を追って続けていきたいと思えます。まず、先ほどのビデオで見せていただいた、公害で大変だった川があんなすばらしい公園に変わったというのは、此花区さんが住民たちの声を聞き、それから官民一体となって進化してこられたということ、まじまじと拝見させていただきました。そして、先ほど高橋区長がおっしゃっていた、過去から見て50年、過去から見て本当にいい意味でとんがっていた。一番先を走っていた。此花区は海も近いですし、たくさん面積もある。だから、本当に先を走っていたのだなということが区長の言葉からもいただきまして、今回のこの取り組みは大変すばらしいことだなというふうに思いました。順番にいくのですけれど、レガシーということ先程鴻池さんがおっしゃっていて、マイナスプラスというよりも何か未来につながるというレガシープラスなど、何か未来に繋がることを私たちはやっていくのだという考え方だったらいいなと。それから、この100作品についても、鴻池さんがおっしゃった「100+」のような、100で止まるのではなくて繋げていくという考え方のもとに長い年月、一気にやってしまうのではなくてずっと継続していただきたいです。実は中之

島の辺りも 2000 年ごろ、コンテンツの街にクリエイターを集めましょうと言って、あちこちにいろいろなコンテンツがあったときがあります。ところが、いろいろ行政が変わってしまい、一気に無くなってしまっただけで、たくさんのクリエイターさんたちが集まって関テレさんの横にたくさんおられました。半分以上みんな東京へ行かれてしまっただけで、今は産創館の方に場所を移されて、堂野さんという方がクリエイターを率いて頑張っておられるのですが、いろいろなアート・コンテンツ・芸術の要素が大阪にはあるなというふうに思っています。

議事に入りますが、アート事業名を 9 ページにたくさん書いていただいている、何となくプライオリティが上からあるのかなと思ってしまっただけで、私も最初これを読む前はなんて読むのかというふうに思っただけで、「konohana」と入れていただくのはとても私は大切と思っています。このアルファベットでされることはグローバルに繋がり、覚えていただければいい。どうしても私たち日本人は漢字にしがちですけど、このアルファベットにしてくださいというのはとても良いな。この「permanentale」はもう一つ意味がよくわからないけれども、「tale」ということは、いろいろと繋がるのかな。それで、「100+」というふうになったら面白いのではないかなというふうに思いました。それ以外の「百花繚乱」も面白いし、「アートで花咲く」もいいのですが、この上のキーワードだけじゃなくて、この下の意味をちゃんと引っ付けて、皆さんに宣伝していかれたらいいのではないかなということで、アルファベットの「konohana permanentale100」がいいのではないかなと思っただけで。

そして、次の有識者会議名ですが、これも高橋区長がおっしゃった 10 ページの絵について、今日開催させていただいたような意見や議論が、実は大阪の中でもいろいろな区に広がって、実は大阪というまちづくりに繋がるというイメージを私は持たせていただきました。そして、大阪にはたくさんの企業がございまして、ただ残念ながらたくさんの企業は東京に本社が移っていかれている状態があるのですが、またこの人たちが大阪に戻っていきななと思っただけで、大阪の魅力をここから発信していくことができれば、とても良いのではないかなというふうに思いました。またあとは、学校と団体、大阪はアカデミアの町だと言われておりますので、たくさんの優秀な学校がおられます。ポテンシャルはとても高いと思います。その学校も巻き込んで、ぜひ、学生さんたちの作品はもちろん各委員会で審査していただかないといけないのですが、実はコスト的にも安くつくと思っただけで、大阪の学校にアイデア出しをお願いして、コンテストやコンペをされて、いろいろな有識者の方々が審査されて残っていくと。そうするとその学生さんが将来大阪を拠点とした芸術家になっていくかもしれないというふうに成長が見えるのではないかなというふうに思いました。この有識者会議名は、12 ページにいろいろ挙げていただいているのですが、これも優先順位が上からなのかなと思っただけで、関西万博のレガシー創出と書いてあるのですが、ちょっとした大阪の未来を考える「大阪フューチャー」有識者会議の中の 1 つのコンセプトとして、万博のレガシーがあってもいいのかな。「大阪フューチャー」の方が大きなイメージで、公園という最初のファーストステップ、次は此花区に広がっていくという活動に繋がるので、区長がおっしゃっていた他の区にも繋がっていくとい

うことで、「大阪フューチャー」でもいいのではないかなというふうに思いました。その次の「テーマ及びコンセプト」について、これはたくさん今までお話を伺っていましたので、やっぱり此花区制100年、100年続いた此花区というまちが、どういうまちにこれからなっていくのか。先ほど未来の繋がり、いろんなところと繋がりというのがございましたけれど、ぜひそうなっていただきたい。どこかと姉妹都市、手を結ぶなどをやって、学生さんやいろんな人たちが行き来できるような形になればいいなというふうに思いました。シルクドソレイユは実は私も大好きで、日本に来られた時は必ず見に行かせていただいているのですが、実は彼らもコロナで3年間とても苦しんでおられて、規模は縮小され、また大変な思いをされていると。そういう方たちは大阪や此花に来て、何か活動しようという人たちとまた関わっていただけるのはとても良いことではないかなというふうに思います。コンセプトについては、私があまりごちゃごちゃ言うよりは、本当に此花の未来は大阪の未来というふうに、この大阪を本当に牽引してきた此花区の未来は必ずや大阪の未来発展に繋がるというようなイメージがあったらいいのかなというふうに思いました。

第1作目です。1作目は、とにかく万博につなげたものにしないと。1970年万博のときは太陽の塔というのが今もちゃんとありまして残っています。あれは耐震基準を達しているのですか。

【橋爪様】

耐震性に問題があったので、数年前に中に鉄筋コンクリートの躯体を造り直して、50年経って、ちゃんとした建物にやっとなりました。

【生駒様】

そうなのですね。かしこまりました。そういう大きなものができるかどうかもわかりませんが、ぜひ万博の第1作目となるように、この間名前が決まった「ミャクミャク」でも良いのではないかなと。ただ、「ミャクミャク」の形だけではなくて、「ミャクミャク」のイメージが何かしらアートになったようなデザインになってくるのも良いのではないかなというふうに思いました。以上です。取り留めないですが。ありがとうございます。

【橋爪様】

ありがとうございます。万博なので「国際的な」を大事にしていくということでもあります。もしミラノに同じようなアート化された街路や公園などがあると、ちょうど姉妹提携などできそうですね。大阪市はミラノと姉妹関係ですので、探していただけると良いかと思えます。姉妹川や姉妹公園といった発想もあるかと。大阪市内で私も入っている御堂筋の姉妹道路をメルボルンやシカゴと提携しています。そういう発想で国際色を付与することもできます。此花区はどこかの海外と提携関係はありますか。

【高橋区長】

無いです、今のところ。

【橋爪様】

何かご縁があり、区で交流とかできれば。ぜひミラノや前に万博をやった都市等との繋がりであれば。

さかのぼって 100 年前の時の話に戻すと、かつての淀川は中津川や神崎川、土佐堀川などの多くの流れに分かれて大阪湾に流れこんでいた。治水対策として各河川の中央に幅の広い新淀川を貫いた。グネグネとまがった川であった中津川の真ん中をまっすぐ抜いて大放水路としたのが新淀川です。その時、中津川の流路の名残が残った。それが埋め立てられた正蓮寺川の部分です。正蓮寺川は、もともとは淀川の一部ですが、最終的に二又に分かれて海に流れていた。新淀川を作るときにだいたい農業土地を治水対策に取られたと思うのです。今回の説明は公害対策から始まっているので、100 年という時間で言うと、公害対策の前に巨大な治水事業があったことを意識するべき。新淀川の事業は日本の明治・大正期における最大の国家プロジェクトだったので、災害や防災の話も出てくると思います。そこから語ると SDGs で繋がる。上流から導水、長柄運河を作って、その水を流していました。ただ戦後、淀んでしまったので、なぜ汚れたのかも調べるべき。多分導水の量が足らなくなったのかもしれないが、長柄運河の上の方の工場排水が入ったかわかりません。先ほどのストーリーの前を調べといてもらおうと歴史に奥行きが出ます。

名称は「konohana permanenitale」でいいと思います。ただイタリア人が見て問題がないかどうかだけ確認ください。また、大阪人はこれ短く言うので、「このはなペルマ」ぐらいに思うと思う。愛称も含めて考えていただければ良いかと。

【鴻池様】

正式な意味はどういう意味か。

【高橋区長】

造語です。トリエンナーレ、「トリエン」に「アーレ」が付いて「3 年に 1 回の芸術祭」。ビエンナーレだったら「2 年に 1 回の芸術祭」。当事業は常設ということで、ずっと続くという意味と常設ということで「ペルマネンターレ」。英語でいう「パーマネント」、イタリア語でいう「ペルマネント」に「アーレ」が付いて、「permanenitale」という言葉を若手が考えてくれた。

【橋爪様】

イタリア人にとって変な意味はないかどうかだけ確認を。全然違う意味になったりしかねないので。また、事業名称はアートを置いていく事業と、置いた後にフェスティバル的な

ものをやる場合の名称と両方が僕は必要だと思います。だから、「konohana permanentele 100+」はアートを置いていく事業。フェスティバルは「konohana permanentele」という名称でアートフェスを毎年やるのかやらないのか、整理をされた方が良いかと。

さっきご紹介にあったように、世界各地でアートフェスがありますが、展示の一方でビジネスマッチングを行っている。釜山映画祭も一般の人が映画見えていますけれど、裏でビジネスコンベンションを必ず行っている。エジンバラフェスも裏で世界中から買い付けに行っている。そういうことを考えるかどうかも含めて、フェスティバル型でやるかどうか、またお披露目の時に公園全体のアートフェスのようなことを毎年やるのか。これはアートを置いていく事業と、お祭り騒ぎをやる事業との関係を整理された方が良いとは思いました。個人的にはぜひ、お祭り騒ぎをやっていただきたいなと思います。「置きました」だけでは盛り上がりません。みんなが触れるアートが良いというふうになるのかもわからない。

また、会議名も含めてですが、先ほどご指摘あった「レガシー」との言葉は、協会の業務だというふうに思われる可能性があります。また、私がいつも申し上げている「2025年から始まるもの」がレガシーなので、万博をスタートとして、正蓮寺川から始まるという点を強調された方が、さっきおっしゃった未来的な、今から始まって100個プラス、1000個までいくと。1000年計画でやるようなイメージの方が面白い。このレガシー創出という表現ですが、ミッションはそこにあるので書いてもいいけれど、名前はもっと未来的な方が良いです。此花区全体のアート化やデザインなどを広げるような、広がりのある名前の方が良いなと思います。此花区のこの会議が勝手に此花区以外のこと言っているのかどうかは判りませんが。

【高橋区長】

此花区が次の一步を踏み出すときには、改めて位置付けや整理、味つけをし直す。

【橋爪様】

夢洲のある区なので、ここからスタートするのはわかりやすい。例えば、花博を行った鶴見区などとも連携すると良いのでは。また学校などとも一緒にできるようなイメージを作れば。かつて「行政の文化化」という発想で、すべての公共建築の予算のうち、一定の割合をアート化にとの議論がありました。たとえば校舎を建てるときに、予算の1%や3%はアート作品をつけていこうとする事業を行っていたところが、大阪府下でも行われていた。

この有識者会議でも、そのような提案ができると良いかと思います。有識者会議の名前は、この1番目の「レガシー創出」ではないのかもしれない。万博の「EXPO」はつけても良いのかもしれないので、事務局でもうちょっと考えて捻っていただけると幸いです。2025やEXPOをつけてもいいけれど、レガシーと言わない方が良いのかもと思います。フューチャーとか未来社会ということを入れるというところで、いくつか代案を考えて。

【高橋区長】

わかりました。承りました。ありがとうございます。

【橋爪様】

コンセプトの中に SDGs 達成への貢献を書いているけれど、もっとかみ砕いた言い方が良いのではないか。SDGs も 2030 年で終わるので、2020 年頃には SDGs の次の議論が始まっています。だから、足元で SDGs を書いていくのはいいのですけれど、いずれこの概念は消えるものと思った上で書くべきかと。もっと普遍的な、持続可能な開発がもともと意味なので、噛み砕いて違う此花区らしい持続可能性への協力や挑戦のような、普遍的な考えの方が良いような気はします。SDGs 達成は流行り言葉にきつと 2030 年になり、そんなことも言っていたなと。次の何かが出てくると忘れられていく。また、万博のテーマとデザインは、私がこれを作る現場にいたが、「Designing Future Society for Our Lives」なので、一人一人の命のために未来社会をデザインするのが本来のテーマで、このデザインという言葉が結構大事だと私は思っています。だから、もう少し公共デザインや生活のデザインや暮らし方のデザインぐらいまで含めて考えてはどうか。アート作品を公園に置いていくのだけれど、未来をデザインするようなコンセプトを書いてきてもらえると良いかなと。「憩いの場として正蓮寺川を再生する」というところも、ここで正蓮寺川という埋め立てられた公園より下流になる。ここで言っている正蓮寺川の再生とは、今の川の方ですよ。

【高橋区長】

川をもう 1 回水を流すみたいなイメージに捉えられてしまいますので、少し意図とは違います。すみません。

【橋爪様】

今もある川を浄化し再生する時に、護岸などをアート化するなどの発想があって良いでしょう。今回の埋め立てている公園のさらに下流にまた川がある。今の公園のところは暗渠で埋め立てていて、下に水が導水されていて、また地上に出て同じ正蓮寺川という川筋になる。盲腸みたいな川ですが、そこをさらに浄化したいと書かれていて、その整備事業などをアートとうまく組み合わせられるのであれば。

【高橋区長】

「正蓮寺川を」という目的を入れるから、何か少しずれてくるということに今気づきまして、どちらかという川であろうが公園であろうが、区民の憩いの場をこの場で再生をしたいなど、作りたいなという思いがございます。

【橋爪様】

整理していただければと思います。また、SDGsの次の概念はおそらく「Well-being（ウェルビーイング）」に繋がる。いかに皆がよく生きるのかということ。「Well-being」、一人一人の幸せな幸福感を高めましょうということを政府の政策でも強調されている。行政計画のいろいろな分野で「Well-being」という言葉が入ってくる。大阪弁だとよくわからないけれど、「頑張って生きて、楽しく生きて」や「陽気で元気で生き生きと」などでしょうか。

【高橋区長】

「笑って過ごそう」みたいな。

【橋爪様】

そうです。そういう大阪らしい「Well-being」というような、SDGsの先にある一人一人の幸せな生き方に繋がるので、それがアートやデザインに繋がることで万博の本当の「レガシー」があると思われれば良い。

1作目の万博らしいモニュメントですが、万博のロゴマークのままやると協会のライセンスになるので、先々に此花区や大阪市として使えなくなる可能性がある。同じ作家であれば、同じ作家だろうと連想させるけれども、少し違う協会のマークには抵触しないアートで、著作権はずっと作家さんと一緒に区役所が持つという形が良い。また、水の都の伝統なのか、此花の工場地帯の伝統なのかわかりませんが、それとかけ合わせてもらおうと。此花の名称は「咲くやこの花」からきており枕詞まで戻る話だから、花が咲いているという此花区として、花柄の「ミャクミャク」みたいなものもあるかも判りません。だから、此花と万博とを掛け合わせという発想で、作品を作っていただければと。

大体2時の予定時間になりまして、もし最後に鴻池さん、生駒さん、追加がありましたらお願いします。

【生駒様】

今1作目の話はだいたい見えてきて、2作3作、次の作品ですけれども、私もぜひ万博に出展していただいた国、154か国ございますので、そこといろいろとお話をなさって、その万博にちなんだ芸術作品を彼らも作るでしょうから、それを置いていきたい、置き土産として置いていきたいというふうに思ってくれると思いますので、ぜひその場として、この此花区の公園のところに上手くお話を持って行かれて、できるだけたくさんの方の皆さんの「レガシー」を受け継ぐという形で。それから企業館が15社ぐらいで出られます。彼らもいろいろと今回作品作られると思うのですが、持って帰って会社に置けないというようなものも出てくるかもしれませんので、良いものがあれば、ぜひそこを上手くつないでいただけたらと思います。また、大阪ですごく感じているのは、大阪の中央区に居ますとあちこち工事現場がすごく多くて、囲いがたくさんあるのですが、意外と無味無臭の囲いが多い。

そういうところに来たら子供たちの絵を、これから工事していくところに子供たちの絵がいろんなところでお披露目いただけるような活動もしていただけたらなというふうに思いました。以上です。

【高橋区長】

ありがとうございます。

【鴻池様】

今の話の続きで、建設現場で囲いのアート化は面白い発見である。大阪の建設業協会に賛同が得られるのかと思うのですが、機会があればお声掛けに行くので、いつでもご連絡ください。それと各国また各企業の万博参加者からの、会期が終わった後の彫刻類の正蓮寺川公園への寄贈について、すごく良いことだと思いますし、しかも実現可能性があると思うので、できるだけ早めに受け皿として、「レガシー」の1つとしての設置の受け皿としてこういう場所がありますよと。せっかくの作品が半年だけで終わってしまうのではなくて、今後ずっと続きますよとのアピールを万博協会の中で周知していただくなり、作家者の方にも後の流れを計画としてあると周知できたらいいなという風に思います。

【橋爪様】

2025年に、この公園のところで多くの人に写真を撮りに来てほしい。例えば、万博の時に万国旗を立てておいて、イタリア領事が来た際にはイタリアの作家の作品をお披露目できたら良いのでは。万博は国際イベントなので、国際色をどう見せるのかというのがあるので、正蓮寺川は国際的なアートの舞台にしますというのをどう見せるのか、そこは少し知恵が要るかなと思います。アートを100個置いてみたらこんな感じというCGを作るなど。まず、1作目が決まってからの話として、2・3・4と100年計画で100個、さらにその先まで。いろんな方に見ていただいて、それも終わった後で寄付をもらう場合は、屋外で台座も作る。屋外のアートは結構傷みますので、良いものをもらわないといけない。東大寺に行くと、古川グループパビリオンの幻の東大のタワーの塔の先端の双輪だけ東大寺に今残っていて、見事なものです。それはアート作品ということでパビリオンの一部切りとって置いている。オブジェ的なものを運ぶお金が要りますけれど、それを置いていくという発想もあるかもわかりません。何館が人気館なのかわかりませんが、屋内に展示しているものよりも、外に出ているものを引き受けることでも良いかと。

【鴻池様】

ほとんどの彫刻は動かないですけど、モビールの動く彫刻というものもある。新宮晋先生と少しご縁があって、花博の時に発足した旧大和銀行グループの大輪会が、博覧会が終わってから関西空港の大屋根にモビールを14体設置しました。そのオープニングに行つてすぐ

く面白かったので、先生にうちの筑波の技術研究所に噴水で動くモニュメントを設置していただいたことがあった。大阪市内でも幾つか、天保山岸壁やリッツカールトンホテル前広場などにありました。また、長堀と御堂筋の交差点にもあったのですが、あれは撤去されて、先生に何故撤去したのかときいたら、「実は大阪市がメンテナンスのお金を出してくれない」と。潤滑しないと回転できないので、メンテナンスが必要らしいのですが、そこら辺の公費負担ができないので撤去しますと。設置後、メンテナンスは必要になると思うので、そういう維持費というのでしょうか、長く存続させるためには、維持管理が大事です。

【橋爪様】

寄贈をいただく時はメンテナンス費用も一緒に寄付いただくかたちで、一筆書いてもらうのが必要かも。「未来永劫、維持に協力します」のような約束もあるかと。

【鴻池様】

前例として、安藤忠雄さんが大川に桜並木を設置する募金に、メンテナンス費用を含めて募金されていました。

【高橋区長】

メンテナンスのことも考えないと、持続化もしませんので。ありがとうございます。

【橋爪様】

本日ご意見いただきましたので、あとは、区役所の方で詰めていただいて、進めていただければと思います。では、お返しします。

【綱嶋課長】

はい、最後に20ページのところで、当面の流れについて、簡単にご説明させていただきます。本日のご意見等を賜りまして、また適宜有識者会議を開きながら進めて参りたいと考えています。下の有識者会議の開催方法に関してですが、今後の有識者会議の開催方法といたしましては、今回のような対面開催のほか、ウェブを活用したオンライン上での開催や、皆様のところにお伺いいたしましてご説明させていただくなど、いろいろ訪問開催も状況も踏まえまして、柔軟に対応できたらなというふうには考えております。また、先ほどいろいろお話もありましたように、これから長く続く会議でございまして、この当面のスケジュールの中では6年度までしか入れていませんけれども、7年度以降も事業継続をしていく予定でございまして、その旨も併せてかえさせていただきます。

座長、本日はどうも、ありがとうございました。皆様、本日は本当に貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。この意見をこれからの検討等の参考にしながら進めていきたいなというふうに思っておりますので、またよろしく願いいた

します。また、コンセプトや事業名称等がある程度固まりましたら、個別にいろいろとご提示しながら、調整することも考えていますので、またよろしく願いいたします。また、次回開催等につきましては、事務局でそういった資料やその整理ができ次第、またご調整させていただきたいというふうに考えております。本日はお忙しいところ本当にどうもありがとうございました。これで第1回の有識者会議を終了いたしたいと思います。どうもありがとうございました。

閉 会 午後2時